

～ 役 割 ～

昨日、54歳になり、思っていたより長生きしたなあと、しょせん「54歳」で思っている自分に気が付きました。大学を卒業してすぐに教職に就いて32年がたちました。

加えて、なにをするにも中途半端でうまくいかなさをまわりや環境のせいにして、人と触れ合うことを避け、そこそこでいいと生活をしていた10代でした。

「自己肯定感」「自尊感情」「自己有用感」・・・感じることも、感じようともせず10代を過ごしていた時、本当に大好きだった小学校の時の先生の訃報を知りました。

先生は卒業をした後も「どうしとる?」「こまったことがなくても、思い出すことがあったらいつでも（小学校に）来いよ」とあたたかく・やさしく言ってくれていました。でも、中高と一度も会いに行ったことはありませんでした。

訃報を知ったその日、先生の住んでいるアパートへ行って、先生とお別れをして、帰り、夜空を見あげて「先生になろう」と決めたその日を思い出すようになりました。

今の自分は先生の年齢よりも長生きをして、先生がかつて勤務した学校で働いています。「先生になろう」そんな将来の仕事を決めたのはまちがいにその先生との出会いでした。教職に就いた自分の決断や今までの道のりを後悔することはありませんが、反省はいっぱいあります。

子どもを取り巻く社会の中で学校は大きな責任を持っています。年々その責任はある意味複雑化し、変化しています。その変化はこれまでの課題を浮き彫りにし、さらなる変化が求められています。

今は管理職となり、若い教職員を見守り、育てることが多くなり、変化に応じた対応や技術を身に付けられるようにと願い日々仕事をしています。ひょっとしたら教職という仕事の職業観も変化していかななくてはならないのではとも思う毎日です。

あのとき大好きだった先生のように自分になれているか。

子どもたちに・若い先生たちにあの時感じた「あたたかさ」や「やさしさ」を与えてやっているか考えながら、悩みながら「学校の先生」をもう少し続けてみようかと思っています。

尾鷲市立尾鷲小学校

山本 浩蔵